

第62代全日本チャンピオン

平成19年度

第62回天皇賜杯・皇后賜杯全日本ソフトテニス選手権大会

平成19年10月19日(金)～21日(日) 静岡県浜松市花川運動公園庭球場



男女の決勝戦が行われた花川運動公園庭球場のセンターコート
(7年連続NHK教育テレビで男女決勝戦の様子が全国放送されました)



ペアとして初優勝(上嶋選手は2年連続3回目)の
女子優勝 杉本 瞳・上嶋 亜友美(東芝姫路)



初優勝を成し遂げた
男子優勝 菅野 創世・佐々木 洋介(川口市役所・ヨネックスクラブ)

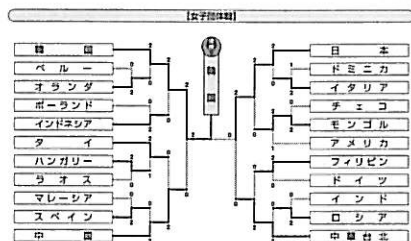
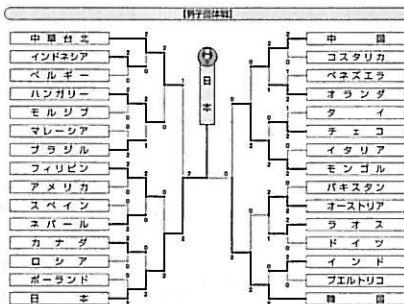
平成19年度 各層の全日本チャンピオン

大会名	男 子		女 子	
全日本小学生選手権	村田 匠・笠井一磨(和歌山)	和歌山L.C.C	花 泉美・平久保安純(和歌山)	和歌山L.C.C
全国中学校選手権	原 幹生・能口拓磨(岡山)	藤田中学校	奥村すずな・須藤 霞(熊本)	鶴城中学校
全国高校選手権	太田重広・柴田章平(岡山)	岡山理科大学附属高校	石原雅子・山本彩加(広島)	広島女子商学園高校
全日本学生選手権	宮下裕司・花田周弥(学連)	同志社大学	高橋由梨香・安藤友里(学連)	東京女子体育大学
全日本社会人(一般)	篠原秀典・小林幸司(東京)	日体桜友会	杉本 瞳・上嶋亜友美(兵庫)	東芝姫路
全日本社会人(成年)	岡部英昭・平井勝己(静岡・愛知)	浜松庭球クラブ・デンソー	寺田祥子・山形扶美代(三重・大阪)	五十鈴クラブ・ファニークラブ
全日本シニア	45 磯野晴幸・谷本満裕(徳島)	阿南クラブ	五味絹代・久富貴美代(奈良・大阪)	アドバンス・堺レディース
	50 甲斐孝久・松村俊介(福岡・熊本)	福岡クラブ・松橋クラブ	薄 妙子・横野久美子(愛知)	刈谷クラブ・すみれクラブ
	55 袴田文雄・菅野勝郎(秋田・岩手)	能代市役所・陸前高田市協会	濱根春子・永井富美子(兵庫・滋賀)	姫路ソフトテニスクラブ・志賀STC
	60 近藤照明・木地孝嘉(愛知)	大府市STA・七宝クラブ	大塚恵美子・林 孝江(群馬・埼玉)	高崎中央クラブ・川口クラブ
	65 野間 浩・新垣栄光(福岡・沖縄)	住友金属小倉・どんぐりクラブ	高羽邦子・水越富士子(大阪)	堺レディース・高槻ソフトテニスクラブ
	70 原田公夫・森本 勲(鳥取)	奥アンツーカ・湊山クラブ	関 寿子・藤裡わか子(千葉)	寿美礼クラブ・小金井テニスクラブ
	75 峯 満・北川博規(徳島・北海道)	阿南クラブ・北見とぎわ幼稚園	田辺幸子・角倉弘子(岡山・兵庫)	岡山カトレヤ・宝塚クラブ

第13回世界ソフトテニス選手権大会



団体を制覇した日本男子チーム
(写真提供/ベースボールマガジン社)



韓国に敗れ団体2位の日本女子チーム
(写真提供/ベースボールマガジン社)

日本代表選手団

団 長: 神崎 公宏
日本ソフトテニス連盟強化委員
(三重高等学校教諭)
庶 務: 橋本 茂樹
日本ソフトテニス連盟国際委員
(ナガセケンコー)

<男 子>

監 督: 齊藤 広宣(松戸市役所)
コーチ: 上松 明裕(岡山市役所)
トレーナー: 川上 晃司
(スポーツインテリジェンス)
選 手: 花田 直弥(京都・京都市役所)
川村 達郎(岡山・岡山市役所)
中堀 成生(広島・NTT西日本・中国)
高川 経生(広島・NTT西日本・中国)
篠原 秀典(東京・日体桜友会)
香川 大輔(神奈川・厚木市役所)

<女 子>

監 督: 渡部 政治
(広島女子商業学園高等学校校長)
コーチ: 若梅 明彦
(九十九里高等学校教諭)
トレーナー: 二瓶 美徳
(スポーツインテリジェンス)
選 手: 上原 絵里(東京・ナガセケンコー)
平田 清乃(東京・ナガセケンコー)
堀越 敦子(広島・NTT西日本・中国)
上嶋亜美美(兵庫・東芝姫路)
杉本 瞳(兵庫・東芝姫路)
中川 静香(東京・ナガセケンコー)

今大会を振り返って

背景

4年に1度の世界選手権が、本年9月7日より12日まで6日間にわたり、韓国の安城(アンソン)市にて開催された。本大会は、ISTF(国際ソフトテニス連盟)主催の大会であり、前回の広島大会でのISTF総会において安城市の開催地が決定され、その後安城市は4年間準備を重ね、今日に至ったものである。世界選手権組織委員会は、安城市当局およびKSTA(韓国ソフトテニス連盟)で構成され、市当局が会場となるテニスコートの建設や、運営の資金的な面を担当し、実際の大会運営については、KSTAが担当するという2つの組織の合体により実現されることとなった。

安城市は、50年のソフトテニスの歴史を持つ韓国国内でも、2位を争うほど、ソフトテニスが盛んな街であり、新規のテニスコートの建設に加え、同時にソフトテニス美術館までを建設してしまふ熱の入れようであった。建設されたテニスコートは、ドーム型国際仕様のアンツーカー系のクレートコート12面を持つテニスコートで、8面と4面に建物に分かれており、何れも観客席が併設され、応援や観戦が可能な素晴らしいテニスコートである。またドームであるため、降雨時でのゲームにも全く支障はなく、また観客席の背部は、外気を取り込めるように開放されているため通常のドーム型コートと異なり、開放感も感じられる。今回参加した海外からの選手や役員からもコート環境には絶賛の声が上がっていた。

想像以上に高かった韓国組織委員会の意気込み

今回の開催にあたっての韓国組織委員会の意気込みは、想像以上に高く、参加国数を40カ国以上と目標を定め、申し込み段階では42カ国を数え、過去の世界大会を含め、最大の参加国数となった(実際は、事情により急遽不参加国があったため、36カ国)。

JSTA(日本ソフトテニス連盟)も、本大会の成功に向け、あらゆる支援、援助を行い、特にISTF加盟国への参加促進や新加盟国の開発においては、韓国組織委員会を代行した。その結果、ヨーロッパからは、スペイン、オランダ、ベルギー、スロバキア、スコットランド、オーストリア、ポーランドの初参加の実現、また南米からは既存の加盟国(ブラジル、コスタリカ、キューソー、

ドミニカ共和国等)の参加実現に加えペルーやパナマの初申し込みを実現させた。

現在のISTFの加盟国は42カ国であるが、今回新たに4〜5カ国の加盟申請が予定されており、50カ国の加盟国も手の届くところになっている。

満員の観客を魅了した新開会式

今回の大会で最も印象的で、感動的であったことは開会式のすばらしさであった。

過去の大会の開会式にはない程大掛かりでオリンピックやアジア大会のようにショー的要素を取り入れた新開会式であった。開会式は3部で構成されており、1部は式典前のショー、2部は式典、3部は式典後のショーで、9月7日の夕刻よりスタートした。メインステージには大オーロラビジョンが設置され、そのステージ上では各国の国旗を使ったショーや韓国民族舞踊、韓国太鼓等のショーが繰り広げられた。ショーは、マスメディアのように大人数を動員したものが多く、一糸乱れぬその動きは、大掛かりな光と音の演出と共に、大変すばらしく、満員の観客を魅了した。

また3部のショーには、選手、役員も観覧席に移動し、網渡りの曲芸やパフォーマンスを楽しんだ。ショーの終わりには、ドーム内でエンディングの花火が打ち上げられ、参加者、観客の度肝を抜く程すばらしいものであった。

個人戦では地元韓国が圧倒的な強さを見せる日本は中堀・高川ペアが原動力となって男子団体を制覇

競技は9月8日からスタートしたが、初日に男女シングルス、2日目はミックスダブルス、3日目は男女ダブルス、4日目は国別団体戦の予選トーナメント、5日目の最終日に準決勝、決勝が行われた。

試合結果は、詳細は既に報告されているが、地元韓国選手の圧倒的な強さであった。初日のシングルスから韓国選手の活躍が目まじしく、3日目までの全ての種目で上位3位までを独占する結果となり、日本選手はわずかに女子シングルスと男子ダブルスにおいて、中川と中堀・高川ペアが3位、ミックスダブルスで高川・上原ペアが3位で銅メダルを獲得するに留まった。

最終日の国別団体戦は、男女とも中華台北との準決勝で、女子は第1戦、2戦とも勝利し、2-0での決勝進出。男子は1ダブルスを落としたものの、中堀・高川ペアの快勝で、2-1で順当に

決勝に進出した。決勝は、何れも圧倒的な勝利で勝ち進んできた地元韓国であったが、女子は代表選手として今回初めて参加する選手が多く、経験豊富で地元の有利さを持った韓国チームに、やはりかなわず、0-2での敗戦となった。

一方、男子は、今回目ざましい活躍を見せたベテラン中堀・高川ペアが初戦を圧勝し、はずみをつけ、2戦のシングルス戦は、篠原選手が抜群の粘り強さをみせ、ファイナルゲームの接戦を見事ものにし、2-0での勝利となり、今大会初の金メダル獲得となった。

韓国チームは、個人戦は地元の出場枠5ペア/5プレーヤー(シングルス)をうまく利用し、必ず誰かが日本や中華台北の強敵をつぶす結果であった。韓国の選手には、大きな力の差はなく、対戦する日本や中華台北の選手は、一度勝っても次にまた韓国選手と対戦せざるを得ないケースが多く、最初の韓国選手には、何とか勝利するものの、最後にあたる韓国選手には敗れるという結果となった。

一昨年のマカオでの東アジア大会以降採用されているISTF加盟国からの派遣審判制も、今回10名の派遣(日本、中華台北、中国、モンゴル、インド、フィリピン、マレーシア、ネパール、インドネシア)審判で、同国選手の審判を避ける配慮がされた。

しかし、審判の技術や技量には、まだまだ差があり、今後は審判技術の水準を同一化するための国際審判制を制度化してゆくことが、大会前に開催されたISTF総会で承認された。

最終日の国別団体戦の終了後、選手村近くの屋外にて、フェアウェルのガーデンパーティーが盛大に行われ、ステージでのショーに引き続き、韓国舞踊団に混じり、各国の選手や役員が、ところ狭しとダンスに興じ、国際交流は夜がふけるのも忘れさすほどの盛況であった。

ISTFの総会では、次回の世界選手権の開催地について、アメリカ、チェコ、中国、タイの4カ国が立候補したが、最終決定に至らず、立候補の4カ国を今後検討し、決定することで合意し閉会した。

次回の大会は、より多くの国が参加し、よりすばらしい大会となることを願い、JSTAはその実現に向け更なる貢献をしてゆく立場であることを認識した大会であった。

〔財〕日本ソフトテニス連盟 国際委員長 丹崎健一

平成18年度事業報告(平成18年4月～19年3月)

1. 選手強化育成に関する事業

- (1) ナショナルチームの強化合宿男女各6回の実施
- (2) ジュニア選抜強化チーム(ジュニア・ナショナルチーム)の強化合宿男子1回、女子は2回に分けて実施
- (3) 競技者育成プログラムを開始して初めての全日本アンダー強化合宿男女共に19年3月に実施
- (4) 強化スタッフを、アジア競技大会日本予選会を初めとする各種大会へ派遣
- (5) 競技者育成プログラムの推進事業
 - ①Step1～Step2を、各支部毎に開催
 - ②Step3(U-14・U-18・男・女)を8ブロック毎に開催し、選手指導者計1,276名が参加して開催
 - ③Step4「全日本U-14・U-18・21選考会及び強化練習会兼第1回ソフトテニスジュニアジャパンカップ」を宮崎市で開催

2. 指導者養成に関する事業

- (1) 各支部より小学生・中学生・高校生指導者の代表各1名が、神奈川県大磯プリンスホテルに一堂に会し、全国指導者研修会(分科会・全体会)を実施
- (2) (財)日本体育協会公認コーチ養成専門科目講習会(前期・後期)を実施
- (3) 指導者バンクの立ち上げ
- (4) 地域スポーツ指導者養成事業
 - ア. 指導員養成講習会専門科目開催事業を11支部が実施
 - イ. 上級指導員養成講習会専門科目開催事業を2支部が実施

3. 地域グループ育成に関する事業

- 各支部に対し会員登録料(一般の20%、中学生の20%、小学生の50%)を還元し、地域クラブ・ジュニアクラブの育成等の充実を図った。
- また、各支部に対し中学生大会、レディース大会、ソフトテニスの日、指導者バンクの補助を行った。

4. 国内競技会に関する事業(主催共催大会の実施)

5. 地域における競技会に関する補助事業
9. 地区選手権大会、9地区高等学校選抜大会、10地区中学校選手権大会、壮年東西対抗大会、超壮年東西対抗大会、全日本学生同好会大会の開催に対して補助を行った。

6. 公認審判員制度に関する事業

- (1) マスターレフェリー46名、マスターアンパイヤー56名を認定
- (2) 公認1級審判員新規83名、更新206名の認定
- (3) 公認2級審判員新規4,859名、更新4,552名、高校生18,086名の認定
- (4) 公認ジュニア審判員18,373名の認定
- (5) 1級審判員の検定会2会場と研修会8会場の実施
- (6) ハンドブックを23,417部・採点票5,377冊・オーダー票1,205冊・ジュニア審判マニュアル5冊・イエローカード166枚等を頒布

7. 技術等級制度に関する事業

- (1) 名誉指導員6名を認定
- (2) 技術等級の認定を次のとおり行った。

8. 用具・施設の公認に関する事業

- (1) ラケットの紙証409,080枚 ネット証布2,800枚を頒布
- (2) 6社41種類のラケットを公認

9. 広報に関する事業

- (1) 機関誌「ソフトテニス」を毎月1回発行(支部購読1,533名・個人購読417名)
- (2) 主要大会のテレビ放映の実施(スポーツ衛星放送「ガオラ」のレギュラー番組放送)
- (3) 第61回全日本選手権大会(福岡市)のNHK教育テレビで、全国放送の実施
- (4) 平成18年度大会記録集を作成し、支部・報道機関等へ配布
- (5) インターネットのホームページを継続

10. 各種表彰の実施

11. 国際競技大会への代表選手団等の派遣

- (1) 第1回フレンドシップ国際ジュニアソフトテニス大会(モンゴル・ウランバートル)
- (2) 第5回チャイニーズカップ国際ソフトテニス大会(中国・桂林市)
- (3) 第2回ハンガリー国際ソフトテニス大会(ハンガリー・ブダペスト)
- (4) 第14回日・韓・中ジュニア交流競技会(韓国・大邱広域市)
- (5) 第13回世界ソフトテニス選手権大会(韓国・安城市)
- (6) 第15回アジア競技大会ソフトテニス競技会(カタール・ドーハ)
- (7) 第4回中山杯国際ソフトテニス大会(中華台北・台中市)

12. 国際普及の促進に関する事業

- (1) 海外長期滞在指導者の派遣
- (2) アメリカへ指導者と選手を派遣
- (3) ドイツ・フランクフルトへの指導者派遣
- (4) ヨーロッパへ指導者と選手を派遣
- (5) イタリア・ローマへのジュニア派遣
- (6) マカオへ指導者を派遣
- (7) フィリピン選手の来日研修受入
- (8) スペインへ指導者と選手を派遣
- (9) ヨーロッパへ指導者と選手を派遣
- (10) マカオから選手来日研修受入
- (11) 用具・用品の支援

13. 国際大会の開催促進に関する事業

- (1) 2006第15回アジア競技大会準備及び支援活動の実施
- (2) 2007第13回世界選手権大会準備及び支援活動の実施

会員登録料に関する使途概要(平成18年度)

会員登録料の使途は主として

- 1 競技力の向上「競技者育成プログラム」
- 2 競技性の向上
- 3 国際性の向上
- 4 大衆化の促進
- 5 広報活動の強化

等々の事業拡充のために用いられていますが、その他として、学連・高体連への還元、会員の傷害補償金および制度運営のための事務費にも充てられています。具体的な金額は一般会計や特別会計のなかで従来からの支出科目に組込まれているため、かならずしも明確な仕訳になっていませんが、登録料を原資にした補償額は平成18年度は概ね次のとおりでした。

(競技力の向上 70,675千円)

- ・選手強化費(ナショナルチーム、ジュニア・全日本Uチーム合宿) — 27,726千円
- ・競技者育成プログラム推進費(ステップ1～4、支部強化推進) — 34,689千円
- ・公認コーチ養成専門科目講習会関係費 — 5,404千円
- ・医学研究費、指導要領等作成費 — 2,856千円
- (競技性の向上 27,960千円)
- ・大会開催地・地域大会への増額、大会表彰の充実 — 16,425千円
- ・全日本小学生大会・全国小学生大会・都道府県中学生大会 — 11,535千円

(国際性の向上 26,720千円)

- ・国際大会派遣費 — 6,791千円
- ・国際大会振興補助費 — 1,716千円
- ・国際普及用具用品購入費 — 3,109千円
- ・国際普及指導費 — 15,104千円

(大衆化の促進 50,879千円)

- ・地域グループ育成費(各支部へ一般登録料の20%還元) — 10,482千円
- ・ジュニア育成費(各支部を通じて中体連登録料の20%・小学生の50%還元) — 25,839千円
- ・指導者バンクの補助費 — 1,800千円
- ・ソフトテニスの日、支部レディース大会 — 6,850千円
- ・審判、指導者育成費(小・中・高校生指導者研修会) — 5,908千円

(広報活動の強化 40,830千円)

- ・テレビ放映関係費(番組作成費、放映料)
- ・NHK全日本大会の放映、衛星放送「ガオラ」での毎月レギュラー番組の提供の一部 — 23,250千円
- ・ポスター等作成費(ソフトテニスの日、全日本選手権大会) — 673千円
- ・インターネット関係費(ホームページ管理、システム構築) — 12,991千円
- ・会員報作成費 — 3,916千円

(傷害補償制度 1,722千円)

- ・傷害補償給付金等 — 1,722千円

(その他 14,878千円)

- ・学連への還元(大学生登録料の50%) — 2,117千円
- ・高体連への還元(高校生登録料の10%) — 5,117千円
- ・中体連への還元(高校生登録料の10%) — 450千円
- ・会員登録事務費 — 7,194千円

平成18年度一般会計 収支決算報告書(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(収入の部)	(千円)	(支出の部)No.1	
1. 分担金収入	27,423	1. 事業費	295,030
1. 支部分担金	7,500	1. 大会視察費	1,173
2. 会員登録料	233,663	2. 指導要領等作成費	808
3. 維持会費	33,160	3. 医学研究費	2,049
2. 事業収入	161,144	4. 競技者育成プログラム推進費	23,527
1. 大会参加料	23,624	5. 審判検定会・研修会	1,139
2. 出版物収入	20,417	6. 地域グループ育成費	46,381
3. 用具検定費	26,419	7. 大会開催関係費	67,501
4. 公認審判収入	79,438	8. 地域大会補助費	4,300
5. 技術等級認定料	11,246	9. 大会役員関係費	5,213
3. 補助金収入	300	10. その他大会関係費	1,024
1. 協賛金寄付金収入	17,555	11. 公認審判関係費	44,413
1. 協賛金	16,750	12. 技術等級関係費	6,680
2. 寄付金	805	13. 用具施設証作成費	1,245
5. 雑収入	6,691	14. 広報活動費	49,354
1. 預金利息	13	15. 表彰費	8,370
2. 広告料	3,010	16. 国際関係費	31,853
3. その他収入	3,668	2. 管理費	92,118
6. 繰入金収入	151,024	1. 人件費	39,068
1. 募金会計	1,290	2. 会議費	12,071
2. 基金会計	149,734	3. 一般管理費	33,296
当期収入合計	611,037	4. 運営費補助	7,683
前期繰越収支差額	85,146	3. 加盟費	923
収入合計	696,183	4. 繰入金支出	98,685
		5. 予備費	0
		6. 基本金支出	150,000
		当期支出合計	636,756
		当期収支差額	△25,719
		次期繰越収支差額	59,427

平成18年度助成事業特別会計 収支決算報告書(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(収入の部)	(千円)	(支出の部)	(千円)
1. 日本体育協会	5,795	1. 日本体育協会	10,113
2. 日本オリンピック委員会	8,067	1. 国体役員派遣費	1,089
3. スポーツ振興基金	2,700	2. 公認コーチ養成講習会	5,404
4. くじ助成	1,350	3. 上級コーチ養成講習会	0
5. その他の助成	550	4. 日本スポーツマスターズ	3,621
6. 大会参加料	3,744	2. 日本オリンピック委員会	22,289
7. 機関誌関係	8,361	1. 競技力向上費	22,289
8. 雑収入	288	3. スポーツ振興基金	31,917
9. 繰入金収入	95,085	1. 競技力向上費	13,786
当期収入合計	125,940	2. 全日本選手権大会	9,050
前期繰越収支差額	0	3. 国際大会チーム派遣費	9,081
収入合計	125,940	4. くじ助成	60,081
		1. 指導者研修会	4,769
		2. 機関誌関係費	10,333
		3. ドーピング検査費	830
		4. 競技者育成プログラムStep3	44,149
		5. その他の助成	1,539
		1. トータルスポーツクリニック	1,539
		当期支出合計	125,940
		当期収支差額	0
		次期繰越収支差額	0

平成18年度会員傷害制度事故実績

本連盟独自の傷害制度の18年度給付状況と主な傷害内容は、次のとおりでした。

事故件数 48件(35件)

支払総付金 1,694千円(2,214千円)

()内は平成17年度実績

傷害内容	一般	大学生	高校生	中学生	小学生	計
アキレス腱断裂	11	0	0	0	0	11
骨折	6	0	1	2	1	10
靭帯損傷	2	0	2	0	0	4
肉離れ	8	0	0	0	0	8
半月板損傷	0	0	1	0	0	1
死亡	0	0	0	0	0	0
その他	11	0	1	0	2	14
計	38	0	5	2	3	48

充分ウォーミングアップで事故を防止し、ソフトテニスを楽しんでください。万一傷害に合われた場合は、本連盟にお問合せください。なお、補償内容・給付金請求の手続きの方法については日本ソフトテニス連盟ホームページの「日本連盟情報」に記載されております。

会員登録者数の実績

(数値：名)

種 別	小 学 生	中 学 生	高 校 生	高 専	大 学 生	一 般	合 計
平成18年度	17,742	240,872	93,199	373	7,567	53,787	413,540
平成17年度	18,084	213,181	96,335	344	7,266	52,422	387,632
平成16年度	19,410	369,672	94,305	115	7,153	49,616	540,271
平成15年度	16,739	370,521	90,116	216	6,654	49,417	533,663
平成14年度	16,654	370,570	87,409	247	6,255	49,083	530,218
平成13年度	11,448	350,556	83,864		6,299	48,683	500,850

平成18年度 会員登録数

支 部 名	一 般		小 学 生		中 学 生		高 校 生		高 専		学 連		合 計	
	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数	団体数	会員数
北 海 道	177	2,720	33	609	295	8,105	176	3,915		67			681	15,416
青 森	53	665	13	274	104	4,411	45	1,109	1	21			216	6,480
岩 手	64	1,712	29	519	146	5,531	86	2,470					325	10,232
宮 城	72	823	21	378	152	2,696	95	2,714	5	39			345	6,650
秋 田	35	731	9	315	82	2,934	50	1,525					176	5,505
山 形	40	691	17	494	74	3,238	48	1,535					179	5,958
福 島	76	1,032	30	694	170	7,942	82	2,161					358	11,829
茨 城	59	1,010	14	355	186	8,462	83	2,185	1	10			343	12,022
栃 木	43	686	10	377	114	5,511	50	1,323					217	7,897
群 馬	46	1,026	16	638	161	7,524	57	1,536	1	14			281	10,738
埼 玉	248	4,436	31	1,232	342	13,790	135	4,565					756	24,023
千 葉	110	2,291	19	479	320	14,393	101	2,766					550	19,929
東 京	141	3,030	20	544	251	6,239	180	4,141					592	13,954
神 奈 川	130	1,503	10	346	261	12,006	141	3,224					542	17,079
山 梨	48	646	12	330	68	1,930	34	1,017					162	3,923
新 潟	71	1,154	18	560	149	4,575	66	1,594					304	7,883
長 野	18	911	15	387	134	4,520	75	2,074					242	7,892
富 山	21	475	15	477	61	1,723	32	996					129	3,671
石 川	61	771	17	410	75	3,336	47	1,212	1	17			201	5,746
福 井	41	663	5	152	42	1,610	19	720					107	3,145
静 岡	136	1,651	23	613	299	13,801	98	2,053	2	13			558	18,131
愛 知	138	2,855	21	679	362	18,446	151	6,209					672	28,189
三 重	47	639	15	318	181	7,160	85	1,444					328	9,561
岐 阜	61	1,016	26	677	262	7,863	51	1,850					400	11,406
滋 賀	30	614	13	512	22	550	38	1,701					103	3,377
京 都	97	965	18	341	85	2,189	54	1,476					254	4,971
大 阪	101	2,108	17	349	248	2,437	199	3,614					565	8,508
兵 庫	72	1,403	12	169	95	2,345	163	5,958					342	9,875
奈 良	39	872	8	163	72	2,768	35	1,079					154	4,882
和 歌 山	52	693	13	248	113	4,208	18	585					196	5,734
鳥 取	24	457	19	341	29	804	25	673					97	2,275
島 根	47	481	8	207	50	2,001	41	1,048					146	3,737
岡 山	65	608	16	266	98	3,198	74	2,452					253	6,524
広 島	108	1,533	24	326	116	2,378	107	2,850					355	7,087
山 口	67	1,050	10	364	95	3,866	62	1,838	4	43			238	7,161
徳 島	24	588	9	118	103	2,843	33	668	1	32			170	4,249
香 川	23	369	6	153	55	2,421	31	771					115	3,714
愛 媛	37	625	7	165	116	4,152	65	1,590	1	5			226	6,537
高 知	49	414	12	126	55	1,500	36	602	1	10			153	2,652
福 岡	68	1,298	16	227	158	4,486	98	2,827	2	71			342	8,909
佐 賀	24	505	14	195	77	3,416	43	883					158	4,999
長 崎	46	1,116	9	236	167	6,618	108	2,444					330	10,414
熊 本	66	1,216	18	276	154	5,778	67	1,695	1	31			306	8,996
大 分	46	810	12	219	101	3,111	30	717					189	4,857
宮 崎	56	1,073	20	405	166	4,185	47	1,124					289	6,787
鹿 児 島	111	1,470	24	366	224	5,902	105	1,655					464	9,393
沖 縄	22	374	8	113	50	1,970	43	611					123	3,068
日本学連											526	7,567	526	7,567
日本連盟	1	8											1	8
合 計	3,211	53,787	752	17,742	6,740	240,872	3,509	93,199	21	373	526	7,567	14,759	413,540
昨 年 度	3,159	52,422	720	18,084	5,877	213,181	3,534	96,335	16	344	509	7,266	13,815	387,632

(平成19年3月31日現在)